

平成 19 年第 3 回 札幌市環境プラザの運営に関する懇談会報告

開催日：平成 19 年 10 月 16 日（火）19：00～21：00

場所：札幌市環境プラザ環境研修室 1，2

参加者 16 名（（財）札幌市青少年女性活動協会より 6 名、札幌市より 2 名の出席を含む）
進行・記録 懇談会幹事 岡崎

この懇談会は、以下の目的で行っていることを確認しました。

「環境プラザの運営に関する懇談会」は、お茶をいただきながら気軽に環境プラザの運営に関しての意見を話し合う場です。札幌市の環境教育の拠点として位置づけられている環境プラザが、市民にとって、また、札幌市の環境保全活動の推進にとって、より役立つ場となるよう、参加者の皆さんと一緒に考えるための機会です。

次の 4 点について、話題提供と意見交換を行いました。

1. 環境プラザで行われた（ている）市民団体や市民の環境保全活動を支援するための取組の報告や、今後の予定を報告していただき、意見交換をしました。

平成 18 年度の取組み

（1）環境活動団体アナウンス + 情報交換会

- ・プラザでの広報の他に、チラシを市内公共施設へ配布、広報さっぽろへ掲載した。
- ・参加団体からは、活動や団体の PR ができたとの感想があった。
- ・改善希望として、次の 3 点があげられ、平成 19 年度の事業では、希望を反映した形とした。
 - 1) パネル展示の場合、期間が 1 週間では短い。
 - 2) 公共施設でのチラシ配布以外の広報の支援があると良い。
 - 3) 募集が遅かった。

（2）くちコミュニティ市 + エコアートの表彰式

- ・来場者は 159 名で、エコアートの表彰式に参加した親子にも見てもらえた。
- ・感想としては、「集客が少ない」「企業の参加も、もっとあればよかった」「来場者からは明るい印象をもってもらえたようだ」「プログラムや看板がわかりにくい」などがあった。

平成 19 年度の取組み

- ・平成 18 年度の 2 つの取組をまとめた内容として、「市民連携企画」を募集。目的は、環境問題に対する気づきから行動に移すような機会の提供。
- ・昨年の反省に出た要望を反映する形で、募集は昨年よりも早くし、募集期間も長めに設定した。応募は、パネル展示が 5 団体で、イベント実施は 2 団体となっている。また、パネル展示は、2 週間とした。広報支援は、チラシ配布の他、広報さっぽろでの告知も行っている。2 つのイベントは、「ばくる市 & リメイクコンテスト 2007（11/3）」と「北海道環境教育ミーティングの体験屋台（2/24）」

課題は、市民活動団体との情報共有・顔の見える関係づくり

Q：市民連携企画に関するビジョン（何年後にこのような姿になっている）は？

(協)特に定めていない。

(市)環境プラザ全体の数値目標としては、来館者4万人。また、環境関連施設(動物園含む)全体で140万人というものがあるが、今後の目標の設定については、検討の余地がある。

Q:市民連携の進め方のイメージは?今後も進めていこうとしているのか?

(市)市民の力を借りたいと思っている。連携は進めたい。

(質問者)それを聞いて安心して、他の団体にも勧めていける。市民側にとっても、活動の幅が広がることだし、プラザを知ってもらえるよう、声をかけていきたい。

2. 札幌市の取組報告と意見交換

- ・平成18年度は、環境教育方針を策定し、平成19年度に、実践プログラムを作成中。
- ・平成19年度は、市長のマニフェストにもある環境首都宣言の策定や、エコ市民運動(年4回のエコライフレポートの提出を呼びかけ、行動によるCO2削減量に見合った植樹を実施し、成果を市民の目に見える形で示す)に取り組む。

Q:最低いくつの取組を!など、目標値を出した方が良いのではないか?

(市)できるだけ多くの人に、少しでも行動するきっかけを提供しようというのが目的。よって、取組のハードルは低く設定している。

3. 環境プラザに足を運んでもらうための意見交換

- ・(市)環境プラザの環境関連の拠点施設としての位置づけを考え、足を運ぶ工夫を心がけている。(例:エコライフ市民運動のレポート提出先)
- ・後期のサタデーテーリング(ST)のポイントに消費者センターと環境プラザが設定された結果、先日行った「おもちゃのばくりっこ」には、180人の参加があった。STは集客効果が高いので、同時期ではなく、前期・後期のポイントとなるよう、市からも働きかけて欲しい。
- ・(指定管理者)3階・4階を利用する方達の初日受付で、2階のPRも行っている。
- ・(指定管理者)環境プラザのカラーパンフ作成・配付の効果が、小学校からの見学の増加となって表れているが、その他の対象については、効果は見られない。
- ・(指定管理者)リピーターがあまりないことが課題。
- ・(指定管理者)環境活動団体登録をしている団体现在30団体ある。市民活動の登録をしている団体で、環境の取組をしているのに、環境への登録をしていないところがかかなりある。そこへの働きかけも必要。
- ・(指定管理者)大型の展示物については、飽きてきたとの意見も聞く。何らかの工夫が必要と感じている。
- ・来年はサミットが開かれる。サミットを考える企画に、ぜひ、環境プラザを使って!というPRをしたらどうだろう?

- ・来館者に「何か得るもの」が必要。
- ・札幌駅や商業施設に近いというメリットを生かし、「ついで」に寄るといった発想が生まれると良い。そのためには、近くの企業や団体との連携などが必要だろう。

4. 3の実現のためにも、懇談会により多くの参加が得られるような工夫を考えよう。

- ・懇談会（＝物を言える場）を知らない人へのPRが必要。
- ・懇談会のPRに、いろいろな支援・協力を求めている。
- ・懇談会の議事録は、格式張っていて不要ではないか？ 推進会議に代表を出すから、議事録が必要となり格式張ったり、面倒だったりする。代表は不要では？

もともとの市の方針は、推進会議の委員は、公募するというものだった。その場合、広く市民の意見を聞く場が担保されないとの懸念から、懇談会からの代表2名が入るといった形を要望し、入れられたという経緯がある。推進会議が、懇談会の運営について話し合う公式の場である以上、懇談会からの参加は重要だし、議事録を出すのは当然のこと。議事録に載るから、率直な発言ができない、というのは、おかしなこと。

- ・懇談会の位置づけがわからない。プラザの運営だけを話し合う場なのか、札幌市の環境活動についても話し合う場なのか？

環境プラザは、札幌市の環境活動の拠点。よって、プラザの運営には、札幌市の環境活動についても含まれる。ただし、全てが対象というわけではなく、プラザに関連すること、という限定はある。

- ・懇談会自体を、「楽しそう」で、「足を運びたくなるように」工夫しよう。
- ・エコ忘年会（うまくつないで）エコ新年会とできればいい。
忘年会という名称は、アルコールが伴う印象が強く、市としての理解を得るのが難しい。
- ・「環境プラザ交流会」としてはどうか？ 懇談会よりソフトな感じで良い。
- ・仲間を増やすことを目的とする。みなで共同作業を行うということで、「エコ鍋」は？

「3. 環境プラザに足を運んでもらうための意見交換」に関して決定したこと

- ・食材研究室を利用して、みなで料理を作り、試食をしながらプラザに対する意見を交流。
- ・参加費 500円
- ・食材研究室の空き状況を調べて、日程調整

配布資料

- ・市民連携企画「ばくる市&リメイクコンテスト2007(11/3)」案内

以上